



生活だより

2021年9月16日
十神小学校生徒指導部

9/21(火)～30(木)は秋の全国交通安全運動週間です

今年の秋の交通安全運動には、次のような全国重点があります。

- 子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保
- 夕暮れ時と夜間の事故防止と歩行者等の保護など安全運転意識の向上
- 自転車の安全確保と交通ルールの遵守の徹底
- 飲酒運転等の悪質・危険な運転の根絶

警視庁の統計によれば、小学生の交通事故で多いのは「横断中」です。安全確認をしているつもりでも、子どもは車との距離感や近づいてくるスピードを正しく認識できない場合があります。車が来ているのに渡ろうとして交通事故につながるケースもあるようです。

黄色信号で強引に通過しようとする車もあるので、信号が変わった瞬間に道路を渡らず、目視で周囲の安全を確かめる習慣をつけさせることが大切です。交差点では「こっちに曲がってくるかもしれない」「私が見えていないかもしれない」などの「かもしれない」を意識して注意しなくてはなりません。

交通事故で死傷した小学校低学年の3割は自宅から100m以内の場所で事故にあっています。事故にあった場所は市町村道などの生活道路が7割を占め、とくに道幅5.5m未満の狭い道路を横断している時に目立ちます。十神地区にも車の交通量が多く、視認性の悪い生活道路がたくさんあります。

12歳以下の子どもの事故は『遊んでいるとき』と『登下校の途中』が最も多く、時間帯は午後4～5時台に集中、小学生の場合は朝7～8時台の登校時にもピークがあります。ドライバーが時間に追われる朝や、疲れて注意が散漫になる夕方は、子どもたちにとっても登下校や遊びなど活動する時間でもあります。

子どもはあっという間に成長します。でも、体格は大人並みになっても、状況判断力や危険回避能力も大人並みというわけにはいきません。個人差もあり、高学年になっても交通状況への理解度があまり上がらない子どももいます。危険に遭遇した時の回避能力は大人が思っているほど発達していないのです。例えば、子どもは信号をきちんと見ていません。子どもの「見る」こと、安全確認行動は、その時の楽しい、悲しい、驚き、不満といった心の動きに強く支配されています。

<小学生が事故にあいやすいのはこんなとき！>



やってみよう! KYT

KYTとは、危険のK、予知のY、トレーニングのTをとった『危険予知トレーニング』の略称です。生活の中に隠れている「危険」が事故につながらないように、子どもに危険を予知・回避する力を身につけさせ、事故の予防をしましょう。裏面にある絵を見て、お子さんとケガや事故につながりそうな行動をしている人に○をつけてみましょう。少なくとも4か所はありますよ。

